第33回身心変容技法研究会「身心変容技法研究会総括～洞窟体験から始まるシャーマニズム・芸能・瞑想～戸隠修験道・羽黒修験道・天河修験道を事例として」　2015年2月12日　鎌田東二

1. 科研「身心変容技法研究会」の4年間を振り返って～総括図



1. Q：「身心変容技法」の始まりをどう考えるか？　A:「洞窟」から始まる。
2. 「洞窟」（＝天岩戸）体験から始まる「ワザヲギ」（『日本書紀』・「神懸り」『古事記』）と呼ばれる「身心変容技法」
3. 「洞窟」には何が潜んでいるのか？　熊か？　大蛇か？　龍か？　トトロか？
4. なぜショーヴェやラスコーにあれほどの「洞窟壁画」が描かれたのか？
5. 「秘儀の島」（益田勝実）＝沖ノ島（①岩上祭祀から②岩陰祭祀を経て③露天祭祀へ）
6. 「身心の洞窟化」＝「神霊の容れ物となる」ことから「洞窟瞑想」へ（瞑想とは身心洞窟をスキャニングしモニタリングしそこから出口に至る過程である）
7. 能（申楽）の「鏡の間」は「身心変容」の磁場としての「洞窟」である。「洞窟」空間の演劇モデル。
8. だが、神事能と違って、見世物歌舞伎には、「花道」はあっても、「鏡の間」はない！
9. 三つの現代修験道の展開事例と「身心変容」のワザ
	1. 戸隠修験道再興と「九頭龍力」の再発見～『阿娑縛抄』（戸隠寺縁起）・『顕光寺流記』・『戸隠大権現縁起』～戸隠神社式年大祭（2015年4月）～山と水の「霊力」と「霊験」
	2. 羽黒修験道と共同体と歩行の力～「験競べ」と火と雪の「霊力」と「霊験」
	3. 天河修験道と水の力～天河護摩壇野焼き講の20年～水と日（秘神日輪天照弁財天）の「霊力」と「霊験」

～「自然智変容回路」としての「天河火間」の実験

９、戸隠山33窟：①本窟・宝窟＝聖観音、②東窟＝薬師如来、③地蔵菩薩、④西窟＝金剛蔵王、⑤大窟＝釈迦如来、⑥獅子窟＝文殊師利菩薩、⑦像窟=普賢菩薩、⑧虚空蔵菩薩、⑨愛染王窟、⑩不動窟、⑪降三世窟、⑫軍荼利窟、⑬大威徳窟、⑭金剛夜叉窟、⑮毘沙門窟、⑯帝釈窟、⑰弁才天窟、⑱経蔵窟、⑲妙法窟、⑳般若窟、㉑知恵窟、㉒歓喜窟、㉓仙人窟、㉔竜窟、㉕鷲窟、㉖金窟、㉗五色窟、㉘三層窟、㉙日中窟、㉚大＊窟、㉛小＊窟、㉜長窟、㉝大多和窟（『戸隠信仰の歴史』戸隠神社、1997年）

１０、乗因著「戸隠山大権現縁起」

　　時ニ天地鳴動シテ風雲沙石を霾シケレハ、役君礙然ト乄観ニ入て眼目を開閉シ玉フニ、権現形を顕大龍王ノ身ヲ示シ、山嶽周囲百余里ナルヲ七回ニ取巻、頭を高妻ノ峯ニ挙テ告て宣ハク、汝菩提心ニ住シテ此山ヲ重興スベシ、ト。役君再拝乄白シテ白サク、我誓願ニ依テ山々を開クト雖モ未タ曾テ如是ノ霊瑞ヲ見ス、今此大神変ヲ見テ精誠感動セリ、然ト雖モ凡下ノ輩、如是ノ天ニ簇リ地ニ蟠ル八大龍王ノ本形を見者、悶絶酔地乄命根を喪失せん、願ハ像法転時ノ衆生之為に小身を現し玉ハ。是ニ於テ二丈ノ黒蛇ト成テ耎ノ□地ニ俛シ玉ヘハ、速還汝本来処ト唱ルトヒトシク霊窟ニ隠レ玉フ。ソノ封ゼン壇場ハ、今ノ九頭龍大権現ノ岩屋是ナリ。是レ乃チ内ニハ菩薩ノ行を秘し、外ニハコレ神龍ナリト現シ、群類ヲ妙果ニ至ラシメ有情ヲ昼夜ニ擁護イマス。本ヨリ福寿増長ノ御神ナレハ、効験イヨイヨ新タニ乄、威徳マスマス盛ナリ。渇仰ノ首ヲ傾クル輩ニハ夭貧窮ヲ転乄長寿厚福ヲ与ヘ、官ヲ求メ子ヲ求メ智慧ヲ祈リ道徳を禱リ商売ノ勝利ヲ願ヘハ速ニ是ヲ授ケ、耕作ノ豊稔ヲ冀ヘバ五穀成就之御神にて万民安穏之祈願を叶ヘ玉フ。万ノ神ノ誓ヒヨリ当社ノ恵ミハ頼母シキ。サレハ毎朝寅之刻御膳を献備スルニ、千早振神代ノ初ヨリ今絶セヌ陰陽不測之徳を顕シ、谷神不死ノ誠ヲ証諗。

１１、「修験道」とは何か？（鎌田東二監修『図説日本の神仏がわかる　修験道』（青春出版社、2015年）

　修験道はいつから始まったのかという問いに、人類史最古の狩猟採集時代から始まった、と答えることも不可能ではない。森を歩き、動物や植物や精霊たちの力を感受し、それを身につけるためのさまざまな儀礼や修行やワザを発達させた。その流れが日本列島に行きついて、日本独自の修行と思想とワザの体系を作り上げた。それが修験道だ、ということもできるからだ。

　一般に、修験道の開祖は役行者小角（634-701）だとされている。大峯修験道ではそうであるが、羽黒修験道ではそれより古く、崇峻天皇の第三皇子で聖徳太子の従兄弟の蜂子皇子（562-641）とされる。だがそのような歴史的起源によって修験道を限定してしまうと、修験道の可能性と未来性を狭めることになる。

　修験道とは、この身をもって天地自然の中に分け入り、そのエネルギーに浸され、賦活されて、天然自然の力と叡智を感受・理解し、それを有情無情の存在世界に調和的につなぎ循環させていく知恵とワザの体系と修道である。わたしはその知恵を「生態智」の獲得と体現であると位置づけている。「生態智」とは、「自然に対する深く慎ましい畏怖・畏敬の念に基づく、暮らしの中での鋭敏な観察と経験によって練り上げられた、自然と人工との持続可能な創造的バランス維持システムの知恵と技法」である。

　早い話が、たとえば雲仙や阿蘇山や御嶽山や富士山などの噴火を見て、そこに「畏怖・畏敬の念」を感じ、そのような火山活動や地形や地質や気象のあり方をよく観察して、その自然のふるまいに逆らうことなく、うまくその力を受け止め生活の中に生かそうとする自然主義的生命主義的生活文化である。

　だが、修験道はそれだけではない。そこには、諸種の技芸が結集している。その意味で、修験道は「一大総合学道技芸」なのである。そこには、金属技術も生産技術も薬学も医療も、呪術も宗教も自然哲学も、土建業もコミュニケーション術も異種間コミュニケーションも異次元コミュニケーションも、すべてがある。だから、それを活かしきることができれば必ず未来はある。それは宝の山であり、エコロジカルな意味で、いのちをかけて継承・発展・活用させていく必要があるものだ。

　もちろん、修験道は、現代でいう「科学（サイエンス）」ではない。だが、科学が事象の正確で精密な観察や理解から始まってそのメカニズムを解明し、人間世界に活用させようとするはたらきであるとするならば、修験道にもそのような意味での科学性はある。何よりもそれは自然体験を第一にする「フィールド科学」なのだから。単なる呪術や宗教ではない。独自のフィールド科学に基づく自然哲学と生活技術がある。修験者は「山伏」、つまり山に伏して、歩き回り、よく見、聞き、祈り、その力と知恵を生きる糧とする。それは「山伏」であり「山師」である。山を師匠とする山の師匠・マスターである。

　そのようなポジティブな意味での「山師」文化、「山伏」文化の再発見と再興が二十一世紀の生き方・暮らし方に大きなヒントと力になると考え、まずは修験道の基礎知識となるものを本書でまとめてみた。ここから修験道の奥深い「山道」にそれぞれが分け入って、知恵と力を汲み取り、激動の時代をたくましく生き抜いていってほしいと心より念願する。

１２、「鬼退治」と「九頭龍退治」伝承～各地の鬼退治や九頭龍退治とその護法神化の問題。

例えば、信濃国戸隠山の縁起書として、13世紀に成立した承澄著『阿娑縛抄』の「諸寺略記　戸隠寺」と15世紀に成った有通著「戸隠山顕光寺流記並序」と18世紀に著わされた乗因の「戸隠山大権現御鎮座本紀」や「戸隠山大権現縁起」を比較検討してみると、そこに共通しているのが「九頭」の怪しき存在についての記述である。もちろんそれは先住土着の「ちはやぶる神」といえる神聖存在であるが、同時に、『古事記』における「八俣大蛇」（『日本書紀』では「八岐大蛇」）のような荒ぶる怪物的存在でもあった。仏教はその「荒ぶり」を鎮め落ち着かせることができたというのが仏教の霊験譚である。これらの縁起書には「岩屋＝霊窟」に潜む龍体的エネルギー（「九頭龍大権現」とされていく）の存在こそ一貫して地主のちはやぶるカミとして感受されてきたモノだった。この龍体エネルギーを造形化した図像が「戸隠曼荼羅」（越志徳門所蔵）である。

　ここには、奥社の神・天手力男神が本地聖観音、九頭龍社の神・九頭龍大神が弁財天、中社の神・天思兼神が釈迦牟尼仏、宝光神の神・天表春命が将軍地蔵として本地垂迹の関係を持つものとして描かれている。そしてそのすべてを戸隠山が取り巻いており、図像下部には地主神の九頭龍大神＝弁財天が描かれている。

　日本で製作された曼荼羅には、那智参詣曼荼羅を始め、山王曼荼羅、春日曼荼羅、富士曼荼羅、立山曼荼羅などさまざまな形式があるが、重要な共通点は「自然描写」であり、その「自然」が「神仏」とされていることである。この「戸隠曼荼羅」もまたそのようなな自然哲学と神仏（習合）哲学を内包している。

　この戸隠山は長らく「戸隠山顕光寺」と「九頭龍社（九頭龍大権現）」という寺社によって構成され、戸隠山と高妻山と乙妻山を巡る戸隠修験道を実修していた。修験道は、日本列島の風土の中で発達した、自然として現われ出る神仏への讃仰と身心対話によって、深い叡智（即身成仏智）と力（法力・験力・霊力）を獲得しようと修行する日本独自のユニークな習合宗教文化であるが、そこでは、・身体智の探究、自然智・自然力の獲得が行を通して実践されており、本稿ではその修験道の蓄積してきた自然智の文化を含めて「生態智」と呼んでいる。

戸隠曼荼羅

　そのような「生態智文化」として現われた神道と「心のワザ学」として練成されてきた仏教をしっかりと再結したいというのが私の悲願である。

悲とアニマ―モノ学・感覚価値研究会展

現代京都藝苑2015は、京都市内の5つの会場を使って開催する現代美術の4つの展覧会（「悲とアニマ」「素材と知覚」「連続の縺れ」「記憶の焼結」）の総合名称です。京都の伝統文化遺産と現代芸術文化の国際的な情報発信に貢献することを目指して、「日本的感受性」の今日的意味を問う展覧会のほか、様々なパフォーマンスやシンポジウム等を行います。

■会場：北野天満宮（〒602-8386　京都府京都市上京区馬喰町）

■会期：2015年3月7日（土）～3月14日（土）会期中無休

■開館時間：9：00～17：00（※3月12日（木）のみ12：00～17：00）入館は閉館30分前迄【無料】

■主催：現代京都藝苑実行委員会／モノ学・感覚価値研究会

■共催：北野天満宮・京都伝統文化の森推進協議会・京都大学こころの未来研究センター震災関連プロジェクト「こころの再生に向けて」

■協賛：株式会社サンレー　■後援：PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015・京都大学こころの未来研究センター連携研究プロジェクト「被災地のこころときずなの再生に芸術実践が果たしうる役割を検証する基盤研究Ⅲ」・科研：基盤研究A「身心変容の比較宗教学――心と体とモノをつなぐワザの総合的研究」（研究代表：鎌田東二・2011年～2015年）

■監修：鎌田東二　■企画：秋丸知貴

■出品作家：大西宏志・岡田修二・勝又公仁彦・狩野智宏・上林壮一郎・坪文子・松生歩・三宅一樹・渡邊淳司＋丸谷和史・スティーヴン・ギル・鎌田東二

■鎮魂茶会：近藤髙弘

■鎮魂舞台：淡路人形座・くーだら劇団（京都伝統文化の森推進協議会）・河村博重＋鎌田東二

■移動舞台車：やなぎみわ

【イベント情報】

■京都伝統文化の森推進協議会＋第35回身心変容技法研究会合同研究公開セミナー「森と身心変容」

日時：2015年3月5日（木）13：00～17：00

場所：京都大学こころの未来研究センター3階大会議室

基調講演①：「木彫刻の心技体――ものつくりのアニミズム」

三宅一樹（彫刻家・元多摩美術大学非常勤講師）

　基調講演②：「森と進化と身心変容――生態学と進化生物学から森の文化を考える」

伊勢武史（生態学者・進化生物学者・京都大学フィールド科学教育研究センター准教授）

総合討論　主催：京都伝統文化の森推進協議会

共催：京都大学こころの未来研究センター（科研：基盤研究A「身心変容の比較宗教学――心と体とモノをつなぐワザの総合的研究」＋ワザ学研究プロジェクト）

■公開シンポジウム①「モノ学・感覚価値研究とアート」

日時：2015年3月7日（土）16：00～19：00

場所：京都大学こころの未来研究センター3階大会議室

　基調講演①：「モノ学・感覚価値研究とは何か」

鎌田東二（京都大学教授・「悲とアニマ」展監修者）

　基調講演②：「モノ学・感覚価値研究会アート分科会の歩み」

大西宏志（京都造形芸術大学教授・モノ学・感覚価値研究会アート分科会幹事）

　基調講演③：「『悲とアニマ』展について」

秋丸知貴（インディペンデントキュレーター・「悲とアニマ」展企画者）

　総合討論　岡田修二（画家・成安造形大学教授）・近藤髙弘（陶芸・美術作家・モノ学・感覚価値研究アート分科会幹事）

■公開シンポジウム②「火と水と森とアート」

日時：2015年3月10日（火）13：00～17：00

場所：京都大学こころの未来研究センター3階大会議室

　基調講演①：「火とアート」

勝又公仁彦（美術家・写真家・京都造形芸術大学専任講師）

　基調講演②：「水とアート」

近藤髙弘（陶芸・美術作家・京都伝統文化の森推進協議会委員）

基調講演③：「森とアート」

やなぎみわ（演出家・美術作家・京都造形芸術大学教授）

総合討論

　　吉岡洋（京都大学教授・京都伝統文化の森推進協議会委員）

鎌田東二（京都大学教授・京都伝統文化の森推進協議会会長）

大西宏志（京都造形芸術大学教授・京都伝統文化の森推進協議会委員）

秋丸知貴（インディペンデントキュレーター・「悲とアニマ」展企画者）

■鎮魂茶会　日時：2015年3月11日（水）12：00～15：00　場所：北野天満宮　茶室　近藤髙弘

■鎮魂舞台　日時：2015年3月11日（水）17：00～19：00頃（※雨天順延）場所：北野天満宮　境内駐車場

演目：17：00～17：05　前口上　鎌田東二＋やなぎみわ

17：05～17：15 移動舞台車ライトアップ＆トランスフォーム やなぎみわ（演出家・美術作家・京都造形芸術大学教授）

17：15～17：45　淡路人形芝居「戎舞」淡路人形座

17：45～18：15　電気紙芝居「くーりんと京だらぼっち」　　くーだら劇団（京都伝統文化の森推進協議会）

18：15～18：45　能舞「天神～鎮魂・悲とアニマ」河村博重（観世流能楽師・重要無形文化財・京都造形芸術大学客員教授）鎌田東二（神道ソングライター・京都大学教授）

18：45～18：50　後口上　加藤迪夫（北野天満宮権宮司）

■現代京都藝苑2015公式ウェブサイト：http://www.kyoto-contemporary-art-network.net/